

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス まなび家		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年3月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)
			17名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)
			7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月18日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習支援の現場において、教育現場での経験者(有資格者)が、教科書に沿って支援し、個々の特性に応じた学習法で支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの利用者の特性をスタッフ全員が周知認識し、個々の特性に合った学習支援に関わっている。</li> <li>利用者の学習の課題を日々の療育日誌に記録し共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者同士で、先輩が後輩に学習支援をするなどOJTも取り入れ、双方に対し相乗効果が出るように仕組んで行く。</li> <li>学校等の関係機関と連携を取りながら、利用者本人のペースに合わせた内容を取り組めるようにする。</li> </ul>
2	日々のショートミーティングに加え、月に1回、必ず全体ミーティングと共に内部研修をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部研修資料と共に専門的な動画なども利用し観るようにしている。その他参考になる動画の案内をスタッフにもしている。</li> <li>消防署などの関係機関と連携をとりながら、専門性の高い研修に参加できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議事録を利用し、出勤が難しいスタッフも情報共有がしやすい環境を整えていく。</li> <li>継続して消防署などの関係機関と連携をとりながら、より専門性の高い研修を実施できるようにする。</li> </ul>
3	保護者に対してはHUGを利用し、当日の活動報告等を携帯電話でご確認していただいている。スタッフ間はteamsやミーティングを利用し、連携を迅速に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と事業所間が連携を取りやすいようにHUGのチャット機能を利用している。また、活動報告や連絡事項など情報共有を密に行っている。</li> <li>活動内容や、利用者の情報など閲覧できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容に応じて管理者が対応を行う。</li> <li>HUGの使用が難しい場合、個別で使い方など伝えられるようサポート体制を整えます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	サービス提供時間が13時からになっているため、長期休暇など保護者の方が就労している場合、午前中の利用ができない。	令和7年度は新人職員が多く入社し、現在のマンパワーでは午前中からのサービス提供が難しい。	“安心して学べる土台”をつくり、OJT+振り返りをセットにすることで経験を学びにつなげられるような人材育成できるような体制を整える。
2	送迎サービスを積極的に行っているが、コスト(車両関連、送迎スタッフ、送迎ソフト作成)が多く、業務が多忙になっている。	自立支援も考慮し、徒歩や自転車交通機関利用など、通所の手段を自力で行える利用者には、提案をしていく。	お迎え時間、お送り時間など、できる限り前後の時間や場所などを考慮し、乗り合わせの工夫をしていく。
3	小学生の利用者が多く、中学生になると利用回数が激減する。	クラブ活動や塾などがあり、中学生になると下校時間が遅くなることから利用回数が大幅に少なくなる。	中学生になっても療育は必要であり、閉所時間の延長や部活が休みになる定期テスト期間などに積極的に通所できるようなプログラムも必要。